

ニューズレター 春/夏号

テキサス日本語教師会
Japanese Teacher's Association of Texas



会長のご挨拶

テキサス日本語教師会 会員の皆様

5月も下旬に入り、夏休みの計画や学期末の成績、夏のコースの準備など、何かとお忙しいことと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、JTATでは本年度もJapan Foundation より助成をいただき、テキサス州における日本語教育推進並びに教員サポートを目的に、様々な活動を続けております。まずJTATアドボカシー活動の一環として、JTATの新会員、TFLAの学会、コーヒブレイクの参加者等には、JTATのゆるキャラ「アルマ大名」Tシャツを、スピーチコンテストのボランティア並びに入賞者には、「アルマ大名」のJTATマスクを配布させていただきました。残りのTシャツやマスクも別の機会にお配りする予定です。

2月の日本語スピーチコンテストにおいては、地区大会も州大会もバーチャルで行われましたが、多くの学生・生徒さんが参加されました。年に一度のスピーチコンテストは日ごろの日本語学習の成果を試す良い機会になったのではないのでしょうか。特にヒューストン日米協会（JASH）、領事館主催の州大会は、YouTubeでライブ配信され、発表者全員のレベルの高さには目を見張るものがありました。参加された学生・生徒さん、メンターをなされた先生方、入賞したか否かにかかわらず、皆さんの頑張りを称えたいと思います。

1

会長のご挨拶

ベイラー大学
プレフューメ裕子

3

日米協会ディレクターのお言葉

ヒューストン日米協会
パッツィ・ブラウン

4

Japan Exchange and Teaching Program

ヒューストン日本領事館
JETコーディネーター
マシュー・クライン

6

JTAT勉強会実施報告

JTAT書記
鈴木真美子

10

シャイナ・アルバートさんへの手紙

リチャードソン高校
中重美保子

11

やさしいせかい 日本語ラップ 替え歌コンテスト

インカレお茶の時間

ベイラー大学
プレフューメ裕子

12

2021-2022 年度 活動報告

スカイライン高校
秋元エマ

13

My Experience on ACTFL 2021 Virtual Convention

University of Houston
Jing Liu

14

JTAT新会員紹介

15

TFLA Fall Conference Presenters

編集後記

本年度はさらにJASHのご協力により、新たにJTAT Inspiration Awardを設けることができました。第一回目の受賞者はリチャードソン高校のShaina Albertさんでした。この賞は今後も継続していく予定で、テキサス中の日本語学習者や教師の励みになることを願っています。本紙面をお借りして、本年度のスピーチコンテストの成功並びに関係者各位のご尽力に改めて感謝申し上げます。

"Inspiration is the action or power of moving the intellect or emotions to a high level."
This newly created award celebrates Texas Japanese language learners whose efforts inspire and motivate others to excel in their own pursuits in the study of Japanese. The recipient of the inaugural JTAT Inspiration Award went to Shaina Albert for her perseverance, dedication and determination to overcome challenges, and most importantly, for serving as a role model to give hope and inspiration to others.(JASHウェブサイトより引用)

JTATワークショップシリーズにおいては、まず1月にJTAT会員の北條先生と中重先生によるAP関係のSIGを、そして5月にはスミスカレッジの熊谷由里先生をお招きし、活気的なバーチャル勉強会を実施いたしました。今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう実践的なSIGを企画していきたいと思っております。

勉強会が実施されない月にはJTAT 会員のネットワークの場として、Zoomコーヒータ임も続けています。会員の皆様には州外や日本からもご参加いただいております。新米からベテランの先生まで日頃お会いできない方々との交流やネットワークの場となっています。日々の仕事や雑務に追われる中、たまの息抜きや仕事の悩み相談もお気軽にさせていただけます。6月の日時に関してはメールでご案内する予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

さて、今後の活動予定ですが、10月21、22日にAllenで開催されるTexas Foreign Language Association (TFLA) のFall Conferenceで、3年ぶりにJTATの年次総会を行うことになりました。昨年同様今年のTFLAでもJTATのセッションを3つ確保し、JTAT会員の先生10名が8つのミニセッションに分かれ、日頃の教育活動や研究成果の発表をしてくださることになっています。またJapan Foundationのグラントにより、JTATの新会員2名への学会参加費の助成も支給できるようになりました。今年の10月に久々に会員の皆様と対面でお目にかかることを楽しみにしております。Please save the date!

最後になりましたが、今年のJTATで特に力を入れていることはウェブサイトのリニューアルです。何分にも役員一同ボランティアですので、リニューアルには時間がかかりますが、まずは北條先生が新しいウェブサイトの作成を開始してくださいました。会員の皆様のご意見やアイデアを反映させた見やすいサイト作りを心がけていく所存です。2022年度のJTAT役員は、会長、プレフューメ (Baylor University)、副会長、ハリス先生 (University of North Texas)、加藤先生 (Johnson High School)、書記、鈴木先生、会計、北條先生 (The Woodlands College Park High School)の五名で務めさせていただいております。いつでもお気軽に役員にご連絡ください。

新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にあり、感染症の流行が収束に向かっていくようです。日本でもようやく入国制限の緩和が開始されるという発表がありました。会員の皆様におかれましては、健康かつ安全で楽しい夏休みをお過ごしなされるよう心からお祈り申し上げます。

テキサス日本語教師会会長
プレフューメ裕子



JAPAN
AMERICA
SOCIETY OF
HOUSTON

ヒューストン日米協会 ディレクターのお言葉

パッツィ・ブラウン

現在テキサス州にある400社以上の日本企業は、6万人以上の雇用を生み出し、州のエネルギー産業での重要な投資家、最大の海外企業グループとなっています。

そしてヒューストン地域の日本企業110社は、245社の関連企業を運営しており、日本とヒューストンとの貿易額は100億ドル近くになります。またダイキン工業、岩谷産業、JERA、クラレ、三菱重工業、サタケ、シンテック等の米国本社があり、伊藤忠、丸紅、三菱、三井、住友商事という日本の5大総合商社は、各社のニューヨーク支社にも匹敵する規模のオフィスをヒューストンに構えています。

これら日系企業の経済活動は、テキサス州民と日本人との密接な草の根の結びつきによって培われた強固な絆の上に成り立っていると言えるでしょう。

ヒューストン日米協会 (JASH) は、1968年に日米親睦の促進を目的としたテキサス州初の組織として設立されて以来、年間を通して言語や教育、芸術や文化、ビジネスやネット

ワーク作り等の活動を通じ、重要な人と人との結びつきを発展させる活動を続けています。

「Japan Festival Houston」、「Houston-Chiba Sister City Youth Ambassador Exchange Program」などの代表的なプログラムに加え、最近では新たな独自のプログラムを加え、活動の幅をさらに広げています。ヒューストン地域の高校2~4年生が対象の

「Seishun 18 Leaders Program」は、当地で活躍する優れた日本人の業界リーダーから日本について学ぶ機会を提供し、ニューヨーク日本協会との共催で教員が対象の「Texas-Japan Professional Development Program for Teachers」では、日米関係の特定テーマを教える際のリソースを提供し、CPEクレジット4単位の取得が可能です。2022年秋の講座は、沖縄本土復帰50周年にあたることから、アメリカの占領、第二次世界大戦、帝国主義などの遺産について掘り下げる予定です。

さらに、JASHは地域の学校で生徒達が日本を学ぶ機会を提供する教師の方々を支援する活動を積極的に行っています。書道、折り紙、紙芝居、けん玉のワークショップなど、日本関連の学習活動を行う際に資料や情報を提供しています。JASHは、テキサス州日本語教師会 (JTAT) と同じく、青少年が日本とその文化への認識と理解を培いながら成長することが大切であると信じており、テキサス州日本語スピーチコンテストに留まらず、個々の活動を通じてJTATの会員の先生方を支援したいと考えています。生徒がコミュニケーションに必要な日本語能力を身に着けると共に、好奇心を持ち、文化的能力を高め、志を抱けるような教育に尽力する教師の方々を支援できることに誇りを持っています。言語と文化の融合を通して、効果的な言語指導の実現の

MAY 24, 2022

ために共に協力して活動できればと思います。



JAPAN EXCHANGE AND TEACHING PROGRAM

JETコーディネーター
マシュー・クライン

Dear Members of the Japanese Teachers Association of Texas,

I am Matthew Klein, the JET Program and MEXT Scholarship coordinator at the Consulate-General of Japan in Houston. I'm very pleased for this opportunity to offer a message about the JET Program to you, as JTAT members have greatly contributed to the success of the program at all stages from advertising the application to conducting the final interviews. Thank you for your gracious support.

Today I would like to share information that goes beyond the general facts available on our US program website, <https://jetprogramusa.org/>. I hope that this

information clarifies the status of the program and gives you helpful tips to share with your students.

COVID Recap

The 2020 JET Program experienced unprecedented challenges as a result of the pandemic. While the application and interviews passed normally, the sudden shift in the spring brought uncertainty and confusion. JET participants experienced a frustrating pattern of waiting for travel restrictions to ease, followed by preparing for departure, only to encounter renewed border closures in response to new variants of COVID. While the 2020 JETs waited for their chance to depart, the 2021 Program cycle soon approached and brought applications, remote interviews and results for a new cohort of JETs. In the end, a combined 2020 and 2021 group of 83 JET participants—the largest Houston JET group ever—successfully departed to Japan on October 23, 2021. This year we are running smoothly on the normal program timeline, but no matter what occurs, we will work through it with the goal of safely sending JET participants at the earliest opportunity.

JET Trends and Application Advice

Now I would like to share developing trends in JET and review application advice. In general, the program is becoming more competitive as candidates become better informed and prepared for the application and interview. While the number of candidates with study abroad experience has declined with the pandemic, there has been a

MAY 24, 2022

notable increase in the number of candidates reporting TEFL certificates and experience self-studying Japanese.

Though these data points are novel, the keys to the application remain the same: to be a strong candidate, applicants should develop a strong career-related purpose for JET, study Japanese language and culture in University courses, get teaching experience and qualifications, and make sure their recommendation letters are very positive and show good knowledge of their abilities.

For the interview phase, applicants should understand that their performance in the 20-minute interview will determine the final result of their candidacy. The strongest candidates are those who present a balanced image as both an authentic, engaged individual and as a competent teacher. I highly recommend that candidates workshop not only their answer content, but also their delivery and presence.

I hope this information serves you and your students well. If you have any questions or JET-related requests, please contact me by email at JETcoord@ho.mofa.go.jp. I can also provide information about MEXT Scholarships, and connect you with our Cultural Affairs coordinator to arrange school visits and or requests to borrow materials from our collection of Japanese cultural items. Thank you again for this opportunity and your ongoing support.

Matthew Klein
JET Program & MEXT Scholarship Coordinator
Consulate-General of Japan in Houston
909 Fannin St. Suite 3000 | 2 Houston Center |
Houston, TX 77010
Tel: (713) 652-2977 ext. #2114 | Fax: (713)
651-7822



2022年度 JTAT勉強会実施報告

JTAT書記鈴木真美子

JTAT冬のSIG勉強会

2022年1月22日（土）にJTAT冬期SIGの勉強会を実施致しました。講師の先生は北條エリザベス先生（現JTAT会計、メンバーシップ担当）と中重美保子先生（前JTAT理事）で、タイトルは「Applying AP Japanese Standards to the Classroom」でした。第一部ではAdvanced Placement(AP)の目的、第2部ではAP日本語を導入するアクティビティ、第3部ではAP導入のLESSONプランを紹介していただきました。高校と大学での日本語指導の違いやAP試験の準備のコツなど、興味深い内容でした。参加者は21名で、内訳は大学の教員65%、高校の教員35%でした。ブレイクアウトルームではAP導入のコンテンツや、AP試験の採点方法などを話し合いました。アンケート回答者は14名で、以下のような感想を寄せていただきました。

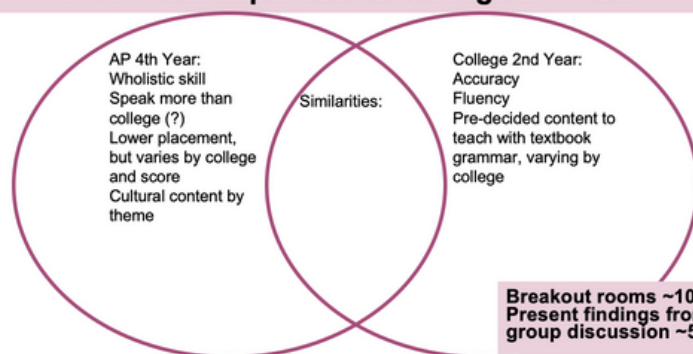
- [I learned] how to understand AP test goals, how to approach and plan lesson to help students be successful on AP exam. I also learned from other teachers what their struggles are and what they do to deliver their lessons. I would like to give my students more practice opportunities for speaking and writing. I also liked to be able to learn what students learn at the college level.
- 私は高校で日本語を教えているので、大学で教壇に立たれている先生方のお話も伺うことが出来て、大変貴重な経験でし

た。

- This was the first time to learn about AP in detail. It's wonderful to see all the ways that the two presenters teach and encourage their students to continue learning and get them ready for the exam. I would like to use some of the methods they shared with us.
- As for the contents specific to AP, the newly gained knowledge will help me when I talk with students who come with AP credits.
- 大学の先生方から、直接生徒さんの様子や授業の内容をお伺いするのは初めて、大変貴重な時間でした。他の先生方がどのようにAP授業をされているか、どのようにマテリアルを準備されているかなど、具体的にご説明いただき大変勉強になりました。日ごろは目先のテストなどに目が行きがちですが、もう一つ先の部分が見えてよい勉強になりました。北條先生の明確なクラスの運営方法はすぐに活用させていただきます。中重先生の具体的なクラスワークの説明は、生徒主体の授業として積極的に取り入れていきたいと思っています。

(2022年1月22日 JTAT 冬のSIG勉強会のPPTより)

What can your students do? AP 4th Year Japanese vs. College 2nd Year



- APについて知りたいと思っていたので、とても参考になりました。大学教員も高校で日本語を勉強した学生がどのように勉強してきたのか知る必要があると思います。
- 大学と高校ではアプローチがかなり違っていると感じていましたが、その印象が立証された気がしました。高校で自由に話すことを奨励される指導を受けてきても大学に進むと正確さ重視なので減点されてしまうのは残念だと思います。

JTAT夏の勉強会実施報告

- 2022年5月7日（土）にJTAT夏の勉強会を開催いたしました。講師はスミス大学の熊谷由里先生で、タイトルは「言語景観プロジェクトのCCBIへの可能性」でした。初めに、「批判的内容重視の言語教育」とは何なのかを確認し、その試みの一つとして「言語景観プロジェクト」について講義されました。その後、参加者は小グループに分かれ、実際にGoogle Mapsを活用して日本の街を仮想探索し、生活の中の「生きたことば」をどのようにことばの教育に「教材」として取り入れることができるのかを体験しながら、それぞれの教室での学習者のレベルや目的に適した学習の設計を考える事を話し合いました。
- 今回の勉強会は「ハンズオン形式」を重視し、22名の参加者が「すぐにでも使える教材を時間内に作る」ことを目標にしました。長めのブレイクアウトセッションを設定し、4人ずつのグループに分かれて、じっくりと日本の各都市の「生きたことば」を「教材」としてCCBIに基づくアプローチで、先生からの指導を受けながら教材作りに励みました。

APに合格した生徒と 大学2年修了時の学生の比較

AP Class Goal

1. AP試験に合格する日本語力をつける。
2. AP授業を通して、グローバル社会に生きる力を養う。

College Goal

1. Understand a wide variety of grammar and terms.
2. Accurate communication abilities in spoken or written contexts. Kanji comprehension is important.

2022年1月22日 JTAT 冬のSIG勉強会のPPTより

今回はテキサス州以外からの参加者も多く、イリノイ州、ワシントン州、ノースカロライナ州などに在住の先生方が参加してくださいました。アンケート回答者は17名（大学の教員77%、高校の教員13%、その他10%）で、実際すぐに授業で使いたい内容だとの回答が多く見られました。その他の回答は以下の通りです。

- CCBIを生教材とする画期的なプロジェクトについて学びました。すごく興味深いもので、参加できて本当によかったです。
- I would like to implement the project we created during the hands-on time in my actual classes. This type of project can provide students opportunities to learn/observe/analyze the language use in everyday life.
- 当たり前を疑問視し、生徒たちに責任をもって行動する重要性を考えさせることのできる内容でした。
- I might try to integrate these signs on the streets in Japan with a theme of each chapter along with critical thinking strategy.
- 今回のグループでやったアクティビティを実際の学期中にやろうと思っています。自分が教えている初級グループで活

課題：グループで実践計画を立てる

① 学習の目標設定

- 対象学習者レベル
- 他の学習項目との関連づけ？
- CCBI的要素？

② 実践の期間・手順

- 短期単発？数週間？学期？
- 学習者がデータ収集？教師が与える？
- 最終成果物？発表？

③ 標識の分類の方法と分析のための質問作成

④ 評価方法

- 何をどう評価するのか？
- 目標との整合性？

- 実践を計画するにあたり、グループで選んだ地域の標識・看板（準備済み）を基に、学習項目や分析の質問などを考える
- 実践計画をスライド4枚（①～④）にまとめる
- グループの発表時間は5分程度（その後はフィードバック交換）

（「言語景観プロジェクトのCCBIへの可能性」より）

動できたので、実際の授業に持って行きやすいです。

- ハンズオン式のワークショップは好評でした。
- 現在初級前半を担当していて、今年度の（クウォーター制の）秋学期～冬学期には、あまり焦点がないカタカナ・ミニプロジェクトを実施していたのですが、来年度（今年の9月から）は、教科書に出てくる「錦商店街」と Google Maps を使って、もう少し深く掘り下げる言語ミニプロジェクトにできたらと思っています。そして、そこから3学期を通しての弱クリティカルから強クリティカルに移動するプロジェクトに発展できるか考えてみるつもりです。

- 看板やサインから、学習者が言語だけでなく日本についていろいろなことを学んだり、批判的思考を高めたりできることを学びました。授業で実践できるいいアイデアを沢山いただきました。楽しい勉強会を実施してくださりありがとうございました。
- 今回のような、参加者である教師達が実際にやってみることができる、hands-on的なワークショップは多くの教師が求めているものだと思います。熊谷先生の、発表のされ方が非常に明確で分かりやすく、参加して意味のあるワークショップだったと感じました。

ブレイクアウトルームでご一緒した先生からも学ぶことが多かったです。また機会があり

ましたら、ぜひ勉強会に参加させていただきたくないと幸いです。ありがとうございました。SIG勉強会の講師の北條先生と中重先生、そして夏の勉強会の講師の熊谷先生には刺激的なアイデアやアクティビティーを紹介していただき、ありがとうございました。そして、お忙しい中参加してくださった先生方にも感謝いたします。これからも日本語教育の発展のため、みなさま方と共に日本語教育の研修に励めることを楽しみにしています。

なお、JTATでは、年に一度夏の勉強会、SIG勉強会は二度開催しております。次回は秋のSIG勉強会となりますが、2022年秋のSIG勉強会のテーマや講師の先生を募集しておりますので、ご意見やご要望がありましたらJTAT役員までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

「言語景観プロジェクトのCCBIへの可能性」より



「言語景観プロジェクトのCCBIへの可能性」より

シャイナ・アルバートさんへの手紙

リチャードソン高校 中重美保子

シャイナさん、ご卒業おめでとう！

私は今でもシャイナさんに初めて会ったときのことを鮮明に覚えています。それはシャイナさんが8年生の時、次年度フレッシュマン・オリエンテーションの日。車椅子に乗ったシャイナさんは飛び切り明るい笑顔で、「来年日本語クラスに入るので、よろしくお願ひします」と言いましたね。覚えていますか？ その時、語ってくれた夢、「高校卒業旅行は日本旅行」は今回のパンデミックで少しお預けですが、今でもその夢は持ち続けていますよね。いつか、きっと行ける日が来ます。その時は私も一緒に行くからね、楽しみにしていきましょう。

あれから4年、日本語の勉強よく頑張りました。授業中、いつでも、どんなときでも素直で、頑張るシャイナさんの姿を見て、感動していたのは私だけでなく、クラスの生徒全員でした。シャイナさんの前で、授業妨害をする生徒は一人もおらず、みんなもシャイナさんに負けじと勉強に集中しました。教師のどんな言葉より、あなたの存在が良いクラスを作るのどんなに効果があったことか。そして、シャイナさんがどれほど他の生徒たちをインスパイアしてきたことか。家事のお手伝いの話題では「私は何もお手伝いできない」と悲しそうに言ったシャイナさん。

「いいえ、あなたは誰よりも、他の人を助けていますよ。私たちはあなたに感謝していますよ」って、さようならをする前にきちんと伝えたいと思います。

日本語クラブにも参加しましたね。みんなで五輪音頭を踊ったり、おにぎりアクション

をしたりしました。おにぎり作りはハードル高過ぎでしたが、楽しい思い出になったことでしょう。ホームカミングパレードで雨の中を歩いたときは、大変でした。シャイナさんが病気になるのではないかと、車いすが故障するのではないかと心配したものです。

11年生の時、「私のヒーロー」というタイトルでスピーチをしましたね。ヒーローに憧れているけれど、「力がなくて、走ることができない自分は絶対ヒーローにはなれない」という絶望から立ちあがり、「他の人のヒーローになれなくてもいい、自分のヒーローになればいい」とリハビリや勉強を頑張って、自分のヒーローになろうと誓いました。でもね、シャイナさん、あなたは他の人のヒーローにもなれるんですよ。私が証明できます。シャイナさんはすでに私のヒーローなのですから。

そして、12年生の時のスピーチは「ライティングの魔法」。どんなにライティングが好きか、どんなにライティングが自分を助けてくれたか、将来小説家になりたい、他の誰かが自分の本を読んで、感銘を受けてくれたらいいかと、語ってくれました。高校生の時、そんなにしっかり自分の道について考えたことがなかった私にとって、シャイナさんは眩しく輝くスターです。

高校を卒業する今、不安と期待で胸がいっぱいのシャイナさん、将来勇気を失いそうになったら、日本語頑張った高校時代を思い出してください。楽しかったことを思い浮かべてください。きっと自信と勇気が戻ってきます。環境が変わっても、シャイナさんがシャイナさんでいることができたなら、大丈夫です。シャイナさんが希望を見失わないように、そして、幸多い人生を歩みますようにと祈っています。

リチャードソン高校 山村美保子

2022年5月

やさしいせかい 日本語ラップ替え歌コンテスト

バイラー大学 プレフューメ裕子



バイラー大学の日本語プログラムが、国際交流基金主催の『やさしい日本語ラップ「やさしい せかい」日本語学習者による替え歌動画コンテスト』で優秀賞を受賞しました。オリジナルのラップは、「やさしい日本語ツアーリズム研究会」による、「多文化共生・インクルーシブ社会の実現のために、やさしい日本語（誰にでもわかりやすい日本語）とやさしい気持ちのある世界をつくろうというメッセージをのせたラップです。」（JFLAウェブサイトより引用）。世界中の日本語学習者を対象にしたこのコンテストでは、日本語学習のチャレンジ、日本や日本文化への想いなど自由なトピックのラップが募集されました。

バイラーのラップはエクストラクレジットの一つとして参加者を募集し、歌詞の作成から動画制作まで、学生主体で取り組みました。ラップ特有のビートに合わせることは、普通の日本語の歌を歌うのと違い、かなりの練習を要しました。バイラー大学の優秀賞受賞は

日本語講師の熊畑先生や藤井先生のご指導とチームワークのおかげでもあります。他の優秀賞のラップも楽しく、何とんでも日本語の上手さや歌詞の表現の仕方に驚いてしまいました。また別の機会があれば学生と一緒にラップにチャレンジしてみたいと思っています。

[バイラー大学の日本語の学生のラップビデオ](https://www.youtube.com/watch?v=DISQEd-5Bso)

<https://www.youtube.com/watch?v=DISQEd-5Bso>

[優秀賞ラップビデオ](https://www.youtube.com/watch?v=EUnrLa1DLhc&t=435s)

<https://www.youtube.com/watch?v=EUnrLa1DLhc&t=435s>



インカレお茶の時間 INTER-COLLEGE JAPANESE LANGUAGE TABLE

バイラー大学 プレフューメ裕子

秋学期に続き春学期もInter-College Japanese Language Table（インカレお茶の時間）が開催されました。これは現在テキサス州の6つの大学（Baylor University, Texas A & M, University of Texas at Austin, North Texas University, Rice University, University of Texas at San Antonio）から学生が参加しています。日本からも法政大学や西南学院大学の学生が参加してくれるので、学生同士の国際交流も兼ねています。毎月、各大学が交代制

でホストをします。最初に簡単なオリエンテーションやアイスブレイクのアクティビティを行い、その後ブレイクアウトルームで自由なお喋りをします。参加する学生の日本語のレベルは初級から上級まで様々なので、あまり日本語が話せなくても心配なく参加できます。今学期最後のインカレお茶の時間はUT Austinがホストをしました。特別ゲストとして、STEVE'S POV, 「スティーブ的視点」というYouTubeチャンネルのスティーブさんにご参加いただきました。流暢な日本語と英語を駆使して日本語や日本文化についての経験をお話ししてくださり、一時間があっという間に過ぎてしまいました。参加学生からは、インカレお茶の時間に関してポジティブな感想が目立ちました。(以下、イベント後のアンケートより抜粋)

- I hope there are more of these types of events in the future. It's a great way to bring together those who have common interests and wish to learn about each other's culture.
- Today's Ocha no Jikan was very fun! I enjoyed meeting new people and talking about the topics together.

インカレお茶の時間は好評につき来年度も実施予定です。上記の6大学以外の大学の参加もウェルカムです! 月一回の参加にご興味がある方はメールでご連絡ください。

Yuko_Prefume@baylor.edu



2021-2022 年度 活動報告

スカイライン高校 秋元エマ

皆さまはじめまして、DISDのスカイライン高校で、日本語教師をさせていただいております、秋元エマと申します。

スカイライン高校に赴任いたしまして、今年度で3年目となりました。幸いなことに、今年度が始まる前の夏休み中に、APトレーニング、また秋には、JTATのご厚情で、TFLAおよびACTFLのコンフェレンスに参加させていただくことができました。これら全てにおいて今回初参加させていただいたのですが、様々なことを学ばせていただきました。

JTATのみなさまのご配慮に心より感謝申し上げます。また、今年は、我がクラスといたしまして、UNの「おにぎりチャレンジ」及び、JTAT「年賀状コンテスト」にも参加させていただくことができました。これらの活動は、生徒からも概ね好評を博しました。さらに、少人数ではありますが、「全米日本語優等生協会 = JNHS」のスポンサーとしての活動も始めました。これからも、いろいろな催しに参加させていただき、さらに日本語教育の向上に努力してまいります。ありがとうございました。

MY EXPERIENCE ON ACTFL 2021 VIRTUAL CONVENTION

University of Houston Jing Liu

Many thanks to ACTFL registration scholarship from JTAT, that I was able to attend my first ACTFL convention, which was held virtually on November 19 - 21, 2021. This conference was full of learning and interaction with so many amazing language educators from around the world sharing their knowledges and experiences.

I have been teaching online classes since 2017, in my perspective, the biggest challenge is how to promote students' engagement, collaboration and effectiveness in an online language class. At the ACTFL 2021 convention, I was enlightened by many presentations which gave me insights on how to convey contents effectively and facilitate students' engagement by using virtual technology and other platforms, etc. For instance, I have learned a lot from 「Gameful Language Lesson Design to Engage Students and Promote Learning」, which was presented by Prof. Mira Angrist and Prof. Amber Navarre from Boston University. They shared their classroom examples, strategies and tools, hands-on practices, and student feedback to create learning games and incorporate gameful elements to language lessons to achieve the desired learning outcomes. During this semester, I have adopted some of teaching strategies and tools they introduced, such as Kahoot, Quizizz and Jamboard, and so on. It's evident that the gameful lesson design indeed helps my

students to be more engaged and more motivated.

In an online language course, it's important for the students to be involved in a union and mature communication environment. So, my another interest would be focusing on how to design and implement interpersonal activities. In my online class, I have established discussion boards and added the video projects on Flipgrid, which was also employed by many presenters in the conference. For example, the students were asked to make a self-introduction video in Japanese in the first week on Flipgrid. Then they could watch each other's videos and make comments via the video format. Considering some students may be camera-shy in speaking, students were allowed to turn their Flipgrid assignments on audio recording format instead of video. This methodology made the class more collaborative and facilitated more dynamic interaction. Another highlight of this convention was how to make cute Japanese onigiri with ACTFL President Jessica sensei and Executive Director Howie Berman's children. Furthermore, they introduced the "Onigiri Action" campaign to attract attendees to join the activity of making Onigiri. My students had participated in "Onigiri Action 2021". I shared in our class onigiri video link during the event.

Overall, it has been an exclusive experience during ACTFL 2021 convention. It offered informative sessions on a variety of topics, which helped language educators from all over the world to be able to promote their students' collaboration.

I look forward to attending ACTFL 2022 Convention!

Welcome to JTAT!

新会員紹介

藤原育子

My name is Ikuko Fujiwara-Jodlowski and I have recently joined JTAT. As the Education and Language Programs Coordinator at the Japan-America Society of Dallas/Fort Worth, I coordinate cultural programs, design curriculums, and teach Japanese. I am actually quite new to the field of Japanese teaching, but I have over 20 years of experience teaching. My academic background is in TESOL and Composition which began with earning a Master's degree in TESOL. I have taught Japanese, ESOL and college composition courses at various colleges in the U.S. My career has been devoted to instruction and supporting student success while promoting diversity and inclusion in educational spaces. I am also interested in cross-cultural/intercultural understanding and guiding learners to use language in empowering ways. Teaching is definitely my passion, but I have recently discovered the fun of designing curriculums, and am working towards diversifying my expertise.

The fun of teaching Japanese is my new-found discovery as well! I have lived the majority of my life outside of Japan, and teaching Japanese allows me to stay rooted in my culture. As a Japanese mother of two toddlers who will likely go through the



American education system, I realized how important it is for me to stay in touch with my culture so my children are well-informed and aware of their Japanese identity. I am, therefore, very happy where I am now with my career at the Japan-America Society and teaching Japanese, as it serves both my personal and professional needs.

During my free time, I enjoy outdoor activities with my family from a simple walk to hiking, camping, and visiting hot springs! Yes, Onsen! We have recently moved to Idaho, and there are wonderful hot springs here that we cannot get enough of. It is one thing, besides family, that I truly miss from Japan so moving to Idaho has filled that void for me.

I also enjoy being able to connect with other educators of Japanese through JTAT. I really appreciate the warm and supportive culture of JTAT, and am looking forward to possible future collaborations and engaging in interesting discussions on Japanese instructions.

TFLA FALL CONFERENCE PRESENTERS

(発表順不同)

Implicitly Integrating Japanese Culture Into Daily Practices and Lessons

*Yuka Kato, Johnson High School
David Shimizu, Lee High School*

Comparison of Teaching Private and Class Online Lessons

Junko Hatanaka, The University of Texas at Austin

Learning from Mistakes in Era of Virtual Exchange and Collaborative Learning

Yoshiko Fujii, Baylor University

Developing a new event collaborating with a community organization

*Yuki Waugh, Texas A&M University
Naoko Ozaki, Rice University*

Benefits of In Class Short Extensive Reading Time

Chikako Cooke, The University of Texas at Austin

Teaching Japanese Honorifics (Keigo) and Culture Through Interviews (from basic to advanced)

Miwako Ichikawa, Middlebury College

The book cart to the world of magic: Diverse students' views through Tadoku

Yayoi Takeuchi, University of North Texas

A report of business Japanese class using PBL.

Makiko Fukuda, University of Texas at San Antonio

Save the date!

2022年 Texas Foreign

Language Association Fall

Conferenceは、10月21日から

22日まで、Marriott Dallas Allen

& Watters Creek Convention

Centerで開催されます。皆様と

対面でお目にかかれることを楽

しみにしております!

編集後記

テキサス教師会の先生方の皆様、

強まる日差しに夏への移ろいを感じる季節を迎え、先生方におかれましては、より一層ご清福にお過ごしのことと存じます。

さて、今年は初めてJTATの副会長としてJTATのニュースレターを担当させていただきました。記事を書いてくださった方々に、心から感謝申し上げます。ニュースレターの作成が思ったより遅れてしまい、誠に申し訳ございません。至らない点もございましたが、皆さまのご高覧を頂き、誠にありがとうございました。これからもニュースレターの作成に最善を尽くしていきたいと思っております。

新型コロナウイルスの感染者数が減少しているなか、対面で先生方にお目にかかれる機会が増えることを大変楽しみにしております。先生方が夏休みを健康で楽しくお過ごしになれるように、心から祈っております。

何卒宜しくお願い致します。

JTAT 副会長・ニュースレター担当

ノーステキサス大学
アンジェラ・ハリス